

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502440		
法人名	株式会社 深田商店		
事業所名	小倉南ケアセンター和が家 グループホーム		
所在地	福岡県北九州市小倉南区津田1-5-16		
自己評価作成日	平成22年10月10日	評価結果確定日	平成22年12月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な生活を安心して暮らせる様に支援しています。行事や生活の楽しみを企画し、一緒に楽しみながら和やかな生活が出来る様に生活を支援しています。安心した生活が送れる様、精神的、身体的に健康が保持出来る様しっかりと体調を管理し、援助していきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族が参加しやすいよう日曜日に運営推進会議を開催しており、多くの家族の参加と活発な意見交換が行われていることが、詳細に記載されている議事録からも確認できる。また、「ものわすれ外来」が設置されているかかりつけ医との充実した連携体制が構築されており、日々の健康管理はもとより、運営推進会議への参加を得たり、医療的な視点での職員研修も実施されている。これらの取り組みからは、少しずつ重度化していく中で、入居者の方々や家族の思いや不安を受け止め、様々な状況に対応しながら、穏やかな日常の継続に向けた支援に努めようとするホームとしての姿勢が伝わってくる。管理者・職員の言葉からは、常に振り返る機会を持ちながら、本人本位のサービス提供を行おうとする真摯な姿勢が伝わり、丁寧に作成されている日々の記録や介護計画からは、その実践を窺い知ることができる。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員間で話し合い、作り上げている。毎朝の申し送り時に職員皆で唱和し、その日その日理念に基づいた支援が出来る様努力している。	運営理念として、「ご高齢者が地域でいつまでも和やかに、安心して暮らすために必要な社会福祉事業。」と掲げ、グループホーム基本方針、及び年間目標を事業所内に掲示している。職員間で作られた理念であり、毎朝唱和し、実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に誘って頂き、参加している。近所を利用者と散歩していると、庭に咲いている花を下さる方もいる。回覧板を利用者と一緒に持って行き、顔なじみになる努力をしている。	運営推進会議の中での話し合いから、町内会に加入し、入居者とともに回覧板を届けている。地域の行事(夏祭り・体育祭等)では、入居者の方々のための優先席も設けられる等、少しずつ地域との関係性も深まってきている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いている方には認知症について話し、理解頂いているが、広く地域の方へ向けて貢献は出来ておらず、努力が必要。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、ホームでの状況を報告している。会議での質問や意見や指摘は参加者も多い為か、活発でそれに応じられる様に改善策を検討している。	家族が参加しやすいよう、日曜日に開催されている。毎回多くの家族の参加を得ており、ホームの主治医や栄養士が参加することもある。詳細な議事録が作成されており、参加者の発言が丁寧に記録されている。職員間で回覧することにより、家族の言葉を共有している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開設5年という実績とその間に市町村担当者を中心に築いたネットワークを活かし情報交換を行い、更に強い協力関係が築ける様努力している。	地域包括支援センターを中心として、グループホーム交流会が発足しており、意見交換や情報共有の機会としている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目の前が車の通行量が多い土地柄を考慮し、安全を優先して、玄関の施錠を行っている為、身体拘束を行っている事になる。又介護職経験の少ない職員が身体拘束を正しく理解出来るかは疑問。	見通しの悪いホーム前の道路は交通量も多く、安全性を最優先して、ホームが位置する2階、及び1階の出入り口が施錠されている。ベランダへの出入り口については、特別な制限は行われていない。身体拘束廃止やリスクマネジメントについての研修に参加し、職員間の意識を高めるよう取り組んでいる。	管理者は現状を課題として捉え、職員とともに検討を行っている段階である。事業所単体での課題としてだけでなく、家族や地域、行政担当者、また1階事業所との連携等、運営推進会議を活用して、検討を重ねていくことを期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度の合同会議で拘束の現状や虐待について話し合い、新人職員にも意識を高めてもらえる様努力し、虐待を見過ごす事が無い様注意を払っている。		

福岡県 小倉南ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	合同会議の際に権利擁護について研修をしている。又パンフレットを玄関に置き、誰の目にも止まり、目を通せる様にしている。以前、後見制度を利用されている方もおり、必要であれば活用出来るよう支援している。	入居時や必要時に、資料をもとに、権利擁護に関する制度についての情報提供を行っている。これまでに活用に向けた支援を行った経緯もあり、必要時には対応できるよう取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な時間を取り、説明と理解をして頂いている。特に入居時、退去時に不安を持たれる様で、その都度契約書や重要事項説明書を用いて説明し、理解して頂いている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満は毎日のケアの中で聞き、又は応じ、改善も出来る様努めている。家族とは、運営推進会議以外にも会話を多くし、気軽に話して頂ける関係を築ける様努力している。玄関にも意見箱を設置した。	家族が意見を言い難いということを十分に理解しながら、運営推進会議や来訪時等に、家族意見の聴取に努めている。運営推進会議は、家族が参加しやすいよう、主として日曜日に開催しており、多数の参加を得ている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は主任、ホーム長、センター長へとつなぎ、反映している。代表者や管理者と職員が多くコミュニケーションを取り、気軽に話せる環境作りに励んでいる。	毎月のカンファレンス等の中で、職員意見や提案を求めている。業務改善等の意見があった場合には、法人へとつなぎ、検討・反映に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、ユニット主任やホーム長から受ける各職員の勤務態度や実績等の報告を把握し、判断している。又各職員から自己評価を提出してもらい、それによって向上心を持って働き、やりがいのある職場環境の整備に努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男性も女性も又年齢層も様々な職員が実際採用され、勤めている。採用の際には本人の個性を見ながら適材適所に努めている。出来る限り勤務時間の希望を聞き入れ働きやすい環境で能力が発揮出来る様配慮している。	職員の採用にあたっては、ヘルパー2級以上という条件はあるが、年齢や性別による排除は行わないようにしている。また「高齢者が好きな方」を重視している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「接遇マニュアル」人権マニュアル」を作成し、いつでも職員が目を通せる様ファイルしている。合同会議の中でも研修を実施している。	人権マニュアルを作成している。身体拘束等の外部研修参加し、また認知症に関する内部研修の機会も多く確保している。	

福岡県 小倉南ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新職員は研修期間を設け、その間現職と行動し、指導を受けている。外部の研修は、個々にあった研修に参加を促している。又自由参加の研修情報も提供し、自分の判断でも参加出来る様努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今まで築いた近隣業者との関係を基に、交流会や研修会に参加し、ネットワークを更に広げ情報交換や施設紹介をしながら、サービスの質の向上に反映させている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面会を行い、又必ず1週間の体験入所期間を設け、その間に多く関わり、生活習慣や既往歴、習慣や性格等を把握し、本人の希望や要望を聞いたり感じとれる関係作りに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や初期面会の際に現状や悩みホームへの要望を十分聞き取れる機会を作っている。それを記録し、皆で共有する様努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面会の機会を多く持ち、本人とは体験期間に接し、今一番の要望を見極めそれにグループホーム、もしくは当ホームが応える事の出来る支援なのかを判断している。それによって他のサービスを勧める可能性もある。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者や介護者は「介護される人」「介護する人」ではなく、年長者であるという尊敬の念を持ち、共にホームで過ごす時間を共有している。毎日たくさんの笑顔や笑いを与え、与えられている様に感じる。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には出来るだけ会話をする様にしている。ホームの行事の際には、参加も頂いている。その中で日々生活状況を説明したり、見て頂いている。ホームでの心配事を相談し、アドバイスを貰いながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、友人知人にも来所して頂いている。何時でも外食や外泊や、ホームと一緒に食事が出来る様になっているが、馴染みの場所との関係が途切れない様な支援が出来ていない。	家族との関係性を大切にしており、外出や外食等に出掛ける際には柔軟な対応を行っている。職場の同僚であった方との交流等、これまでの暮らしの中での関係性が継続するよう支援している。	

福岡県 小倉南ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士一緒に作業やレクリエーションに参加して関わりが持てる様支援している。仲が良い悪いもあるので、そのへんは職員が間に入り配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、病院や施設に面会に行く等本人、家族とその後の経過を連絡し合っている。亡くなられた場合は葬儀に参列させてもらっている。ご家族の精神的不安の支えにでもなれればと思っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中や行動で思いや要望のヒントが隠されていることが多い。家族からも今までの生活歴や趣味等を聞き、その情報をトータルして職員間で検討している。	センター方式の一部活用にも取り組んでおり、アセスメント情報を3ヶ月毎に更新している。日常の何気ない会話や表情の変化、行動等から、それぞれの方々の思いや願いを推し測り、職員間での共有や検討を行っている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に本人や家族からの出来る限りの情報収集を行い、入所後も日常のコミュニケーションの中から情報を得、得た情報は職員間で共有出来る様にファイルしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、精神面、健康面、生活面に関して色々な日誌や表に記録し、勤務が始まる前に必ずそれらに目を通し、現状の把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、又感じながらアセスメントを行い、カンファレンスの際に職員間で意見を交換し合い、介護計画に充実させている。	本人・家族の意向を踏まえ、医師等のアドバイスを参考にしながら、カンファレンスにて検討が行われており、本人・家族の役割についても明記された、個別性ある計画が作成されている。3ヶ月毎のモニタリング・評価、週間評価、日々の実施記録等により、支援内容についての積極的な検討が行われている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	諸々の記録物やケアプラン実施有無、週間ケアプラン評価を参考にカンファレンスを行い、見直しを活かしている。		

福岡県 小倉南ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスでの行事に参加したり、デイサービスのフロアを利用したりしている。元デイサービスを利用していた利用者には顔なじみの方々に時々会える様配慮したり、元居宅の利用者だった方には居宅ケアマネより、入居後も情報を貰ったりしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加させて頂いたり、民生委員、ボランティア、消防署等とも関わりを持たせて頂き、安全で楽しい暮らしが出来る様支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意思を尊重し、本人の選んだかかりつけ医と連絡を取り、相互協力して適切な医療が受けられる様に援助している。	本人・家族の意向によるかかりつけ医を尊重している。ホームの協力医との充実した連携があり、運営推進会議への参加や、ホームでの研修(排泄・口腔ケア等)も実施されている。健康管理シート及び健康日誌にて、状況の把握・確認、情報の共有を図っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の時には看護職、介護職も同席し、情報を共有し、往診日以外も利用者の変化に対し相談をし、アドバイスを貰っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、利用者の情報交換をするのは勿論、入院中も面会に行ったり、電話連絡をしたり、病院スタッフとの密な関係作りにも努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについて説明をしている。重度化に伴い、実際様々な不安を持たれ、悩まれる様である。医師、看護師、介護職を交え、十分に説明を行い、一緒に方針を決め、共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、事業所としての指針を示し、同意を得ている。状況の変化に応じて、医師を交えた話し合いを重ね、方針を共有している。これまでに、本人、家族の意向に沿えるよう看取りを支援した実績もあり、管理者・職員意識も高い。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に協力頂き、定期的に訓練を受けている。それに職員が順番に参加できる様配慮している。内部研修も行っている。又マニュアルも作成し、すぐに閲覧出来る様にしている。		

福岡県 小倉南ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署による、昼夜を想定した災害訓練を受けている。それに職員が順番に参加出来る様配慮している。地域の人々との協力体制については不安である。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。消防署の協力のもと、避難方法等について具体的な指導を受けている。スプリンクラーが設置されている。	運営推進会議での案内や報告、隣接するコンビニエンスストアへの協力要請等が行われている。近隣住民や家族、行政等の協力を得ながら、より実践的な訓練となるよう継続して働きかけを行う予定としている。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や接遇マニュアルを参考に人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない声掛けや対応が出来るよう努めている。	一人ひとりの個別性を尊重し、尊厳を損ねない対応や声かけとなるよう、カンファレンスや日々の支援の過程において話し合っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に無理強いをせず、本人の希望を聞き、本人の意思を尊重している。本人が自己決定出来る様に、分かり易く説明する事を心掛けている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や希望に合わせて、本人のペースで生活出来る様にしている。日々共に生活する中で各利用者様のペースを把握し、得意分野や趣味等を活かした暮らしが出来る様心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前から使われていた衣類を持ち込んでもらい、毎日自分で選択出来る様にしている。自己選択が難しい方には、一緒に決めている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化に伴い食事の準備を一緒に行う事はままならなくなってきた。後片付けは、食器拭き、お盆拭き、台拭き等一緒に行っている。	昼食・夕食は、1階の厨房にて調理されており、個別の希望や状況に細やかな配慮が行われている。職員とともに食卓を囲み、和やかな食事風景があった。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は毎日チェックを行い、摂取量の少ない方には、ご飯にふりかけをかけたり、好みの飲み物を買って来てお出ししたり工夫しながら摂取量確保に努力している。		

福岡県 小倉南ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員は付き添いの上、本人が出来る所は自分でして貰い、確認を行い、出来ない所は介助しながら清潔保持が出来ている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、各々に合わせたパンツ、リハビリパンツ、パット類を使用し、各々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表には細やかな観察視点による記載がなされており、それぞれの方々の排泄パターンを把握し、個別の声掛け、トイレ誘導を行っている。また自然な排便となるよう水分摂取の工夫や、法人栄養士の協力を得ながら積極的なアプローチが行われている。ホームの協力医により、排泄に関する内部研修が実施されている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日チェックし、腹音を聞いたり定期薬を用いたり、水分の少ない方には好きな飲み物を用意したり、ヤクルト、牛乳を用いたり、又散歩したり、廊下を歩行訓練したりと努力している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、声掛けし、同意の上本人の希望に合わせた入浴時間で入浴して頂いている。長風呂の方、そうでない方、熱目の湯やぬる目の湯が好きな方、様々いらっしゃいます。	毎日、入浴準備を行い、希望や状況に合わせて柔軟な対応を行っている。入浴剤の使用や、しょうぶ湯、ゆず湯等、入浴が楽しめるよう工夫している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所時の生活リズムの聞き取りを参考に、その日の体調に合わせて、ソファや居室で自由に休息が出来る様支援している。湿度、温度、室光にも配慮している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受信結果シート、服薬チェック表、処方箋等を参考に理解に努めている。健康日誌、申し送り表で症状の変化に対する情報交換を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月毎にレクリエーション担当者を決め、色々なアイデアを出し、レクを実施している。実施した結果好評だった、不評だった、この方には難しかった様だったという意見を参考に楽しみに繋がる支援をしている。		

福岡県 小倉南ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>重度化に伴い外出も難しくなっているが、その日の状態に合わせ、散歩したりゴミ捨てに一緒に行ったり、地域の行事に参加したりしている。定期的に家族と外食される方もおられるし、先日は本人が希望した為、家に荷物と一緒に取りに行った。</p>	<p>日常的な役割の中での外出(回覧板を届ける・ゴミ捨てに行く等)や地域行事への参加を行っている。少しずつ重度化する中で、日常的な散歩等についての対応が難しくなっているが、出来る限り個々の希望や状況にあわせた支援が行えるよう努めている。ベランダでの外気浴は気軽に行える環境がある。</p>	<p>家族の協力も得ながら、心身の活性化につながるよう、更なる取り組みに期待します。充実してきているアセスメント情報を活かした個別支援へのアプローチや、気軽に外気浴ができるベランダの活用の工夫等、検討してみてください。</p>
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホームで預かり保管しているが、利用者の希望により使えるようにしている。認知症の為お金の管理は難しいが、小額でも持っている事で安心される方は所持してもらっている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は要望があれば、かけられる様に援助している。携帯電話で、家族と気軽に会話出来る様にされている方もいる。手紙の支援は出来ていない。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアや廊下、居室に四季を感じられる壁画やカレンダーを貼っている。利用者の作品も展示している。共有空間は常に整理整頓清掃を心がけ、不快や不安な思いをしない様に配慮している。</p>	<p>十分な広さを持つ共用空間には、各所にソファが設置されており、それぞれの方々にとってのくつろぎの場所となっている。ユニット間にあるベランダも広く、入居者とともに花を育てたり、ベンチで日光浴をすることが出来る。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間の中で各々決まった席、いつもの場所を持ちながら、時には利用者同士、食器拭き洗濯物たたみをしながら一緒に過ごし、日光浴やベランダの花を見て会話出来る様に配慮もしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者各々が以前から使っていた物や好きな物を持ち込み、本人が居心地良く過ごせる様に工夫している。</p>	<p>クローゼットや引き出しが設置されている中に、それぞれの方々の馴染みの品々が持ち込まれており、生活感ある居室が多い。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>大きな文字や絵で分かり易く表示したり、迷っていたら声をかけ不安にならない様に努めている。建物にはフロアに手すりや浴槽には滑り止めマット等を用いて工夫している。</p>		